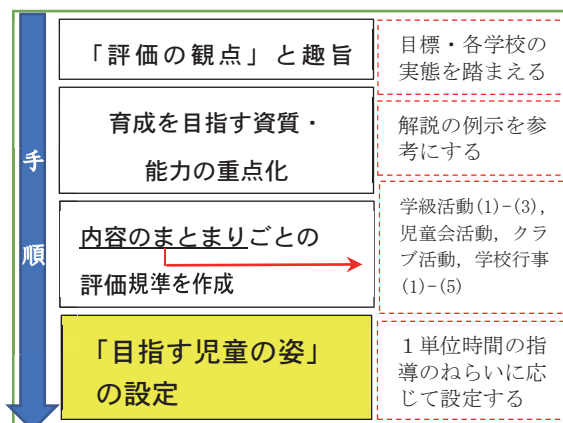


# 一人一人のよさを評価して 児童のより深い意思決定を促す

## POINT 1 各学校の実態を踏まえた「目指す児童の姿」を設定する

特別活動の評価において最も大切なのは、児童の将来の自己実現に向けて、一人一人のよさや可能性を伸ばしていくことです。そのためには、評価の観点及び評価規準を具体的に設定した上で、一連の学習過程における児童の努力や意欲を積極的に認めたり、児童のよさを多面的・総合的に評価したりすることが重要です。

特に1単位時間の授業においては、内容のまとまりごとの評価規準を踏まえ、指導のねらいに応じた「目指す児童の姿」を設定し、活動において表出された児童の姿を通した見取りを行います。

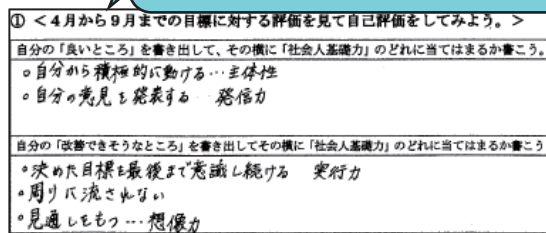


▲「目指す児童の姿」設定の手順

この学校では、「1年間のあしあと」をポートフォリオとして残しています。活動への見通しをもたせる場面で、それを活用した自己評価を取り入れ、より主体的な学びにつなげています。

## POINT 2 児童の自己評価への意識を高める

特別活動において育成を目指す資質・能力は、学級・学校生活における身近な問題について、児童自らが集団活動を通して自主的・実践的に学ぶことを通して初めて身に付くものです。そこで、児童が自己の活動に見通しをもって取り組んだり、活動を振り返って新たな目標や課題の改善につなげたりすることができるように、適切に自己評価の学習活動を取り入れていきましょう。教師の見取りとあわせて活用することで、児童理解の深まりとともに、児童の活動意欲の向上や資質・能力の涵養にもつながります。授業において自己評価の活動を進める際には、次のような工夫が考えられます。



- ・1単位時間の指導内容に関連したポートフォリオ（キャリア・パスポートを含む）を、自己評価に活用する。
- ・集団の一員としての自分のよさや課題について認識を深めるために、友達との相互評価を行う。

## POINT 3 児童の意思決定に対話的にかかわる

特に学級活動（2）（3）においては、児童自身が学校生活への適応や自己実現に向けて主体的に課題を捉え、個人の意思決定につなげることが大切です。そのような学習過程において、教師は一人一人の児童に対話的にかかわり、児童自身が自己のもつよさや可能性について発展的に考え、自己実現につながる意思決定ができるように支援します。そのためには次のような工夫が考えられます。

- ・事前アンケートやポートフォリオを活用し、一人一人の題材に対する考えや願いを把握する。
- ・十分満足できる活動の状況を「目指す児童の姿」として具体的に想定し、支援につなげる。



## 6学年

### 「ふれあいフェスティバルに向けて」

#### 特別活動実践事例

題材：学級活動（3）一人一人のキャリア形成と自己実現

ア 現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成

- ・ポートフォリオに基づいた自己評価
- ・話し合い活動による相互評価

#### 評価規準

よりよい生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことの意義を理解し、自己のよさを生かしながら将来への見通しをもち、自己実現を図るために必要な知識や行動の仕方を身に付けている。	希望や目標をもつこと、働くことや学ぶことについて、よりよく生きるための課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	現在及び将来にわたってよりよく生きるために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自己実現に向けて自主的に行動しようとしている。

#### POINT1 「目指す児童の姿」に基づいて評価する

本時のねらい

『これまでの縦割り班活動について振り返ることを通して、最上級生としての自分なりのめあてをもって「ふれあいフェスティバル」に臨むことができるようにする。』

⚠️ 話し合いで出された考えを踏まえ、自分の課題に合った具体的なめあてを立てているかが評価のポイントとなる。

評価の場面

- ① 縦割り活動の意義や課題に関わる「話し合い活動」の場面
- ② 今後の取組に関する意思決定の場面

目指す児童の姿

- ① 縦割り活動の意義や課題について、自分なりの考えをもち、友達に伝えている。
- ② 話し合い活動で出された考えから、自分の課題を踏まえ、ふれあいフェスティバルに向けた具体的なめあてを決めている。

※いずれも【思考・判断・表現】の観点

#### POINT2 自己評価と相互評価とを組み合わせる

##### ・自己評価の仕方を押さえる

「ポジショニングマップ」などを活用して、事前アンケートの自己評価について整理させ、めあての設定につなげる。

##### ・相互評価で自己評価を再整理する

自己評価に基づいた話し合い活動を通して、お互いの成果や課題、よさ等について相互評価を行う。それにより、自分らしさへの気づきとともに、自己実現に向けた意思決定の深まりを促す。



▲「ポジショニングマップ」で視覚的にも分かりやすく

#### POINT3 児童の意思決定をサポートする

##### ・一人一人の思いをつかんでおく

事前アンケートの結果を一覧表にまとめるなどして、児童の思いの概要を学校生活の状況と合わせてつかんでおく。

##### ・児童の主体的な話し合い活動と意思決定に対話的にかかわる

「目指す児童の姿」の実現に向けての支援となるように留意する。特に、意思決定の内容については、児童自身の考えとなるようにすることがポイントとなる。



▲教師が児童の話し合いに対話的にかかわる